

■児童・生徒の学力の状況

○今年度の「全国学力・学習状況調査」では、二教科とも全国平均を下回った。国語科では、「知識・技能」の観点について全国平均をわずかに上回ったが、「思考・判断・表現」の観点については、特に「C 読むこと」の領域において大きく下回った。算数科では、特に「思考・判断・表現」の観点について、都平均を大きく下回っている。また、両教科ともに、短答式や記述式の問題について誤答や無回答が多い傾向も見られる。しかし、昨年度より差が縮小するなど、改善の傾向が継続している。

○自ら課題を見いだし友達と協働しながら問題を解決しようとする態度や力が着実に身に付いてきている。また、その過程で一人一台端末の活用も広がってきている。しかし、学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることには課題が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○児童が既習を生かし見方・考え方を働かせながら資料等を読み取り、自ら問いを見いだすことのできる教材や学習活動、発問などの手だてを工夫していく必要がある。（既習事項の確認、教材開発、資料提示の工夫、体験的な活動の設定等）

○児童が自分たちの予想を基に学習計画を立てる場面を重視し、見通しと意欲をもって追究できるようにする手だてを講じてることが必要である。（既習事項や生活経験の想起・活用、適切なヒントの提示、対話的な活動の充実等）

○児童が課題を意識し、教材や資料等を自ら読み解きながら追究し、考えを構築していく指導の工夫について充実が必要である。（資料の精選、協働的な学びの充実、選択場面の設定、一人一台端末の活用）

○児童の考えを広げ深めるための言語能力の育成及び対話的な活動の充実が必要である。（多様な表現活動、一人一台端末の活用）

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

★みんなで取り組む問題解決的な学習の充実、校内研究の推進「主体的に学びに向かう児童」、GIGAスクールの推進

◎「つかむ→見通しをもつ→調べ考える→まとめる（→いかす）」、みんなで解決する問題解決的な学習。

みんなが分かる・できる・参加する授業。個別最適な学びと協働的な学びの充実。

・「板橋区授業スタンダード」を基盤とした単元を通した問題解決・単元や内容のまとまりを意識した問題解決的な学習

・関心や問題意識を高める導入の工夫（教材開発、学習活動、地域・関係諸機関との連携）・見通しと振り返りの重視

・子どもが選択して学習に取り組む場面の意図的な設定（課題、時間、方法、資料、活動等）

・各教科・領域等の見方・考え方を働かせて考え、表現することのできる教材や学習活動、指導・支援の工夫

・言葉で表現し伝え合い深め合う活動の充実（対話的・協働的な学び）・学びを生活や社会とつなぐ・自己調整場面の設定

◎授業規律（聞き方・話し方も含む）の徹底 ◎校内研究の推進

◎一人一台端末の活用推進…学年段階に応じた計画的な指導・活用、効果的かつ多様な活用（調べる、記録、まとめる、伝え合う、発信、聞き取り、交流等）

◎STEAM教育の考え方を生かしたカリキュラム・マネジメントや探究的な学びの充実

◎小中一貫教育の推進…小中9年間の系統性・関連性を意識した指導（一教科一取組）、教科担任制の実施（第3学年以上）、中央図書館との連携

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○一単位時間だけでなく単元や内容のまとまりにおいて「つかむ→見通しをもつ→調べ考える→まとめる→いかす」の流れを意識し、みんなで解決する問題解決的な学習の推進、充実を図る。	○読み解く力の6つの視点を踏まえ、国語科において、文章に即して主述の係り受けをはじめ基礎的な読解力の定着を図る。	○各教科等の内容や目標との関連を図りながら、総合的な学習の時間における単元を構想し、各教科等における学びを活用する場面を意図的に設定する。
○各段階で、児童の関心や問題意識の喚起、見方・考え方を働かせること、見通しと振り返り視、既習の活用、切実感や目的のある対話的な活動を重視し、教材や活動の工夫をする。	○国語科での学びを各教科等で活用する場面をつくる。また、各教科等の目標や内容に応じて指導する内容を明確にし、教科書を積極的に活用しながらその定着や伸長を図る。	○各教科等における問題解決的な学習の経験を生かし、「課題をつかむ→調べる→考える→まとめる→いかす」のサイクルを繰り返しながら児童主体の探究的な学びを展開。よりよく課題を解決し、自分の生き方を考えていく資質・能力を育成する。
	○朝読書の時間を活用して、読書習慣の定着を図る。	
	○小学生新聞等を活用して、記事を紹介したり、お気に入りの記事について感想を書いたりするなど、文章を読む習慣や環境作りに努める。	

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアのめざす子ども像や「読み解く力」を含めた課題に基づき、各教科における共通の取組を具体的に設定し（一教科一取組）、定期的に意見交換をしながら着実に実践していく。	○STEAM教育の考え方を基に、生活科や総合的な学習の時間を核にしてカリキュラム・マネジメントの充実を図る。それを通して、自らの課題を見付け、解決する力を育成するとともに、協働的な学習等を通して学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。	○板橋区「情報活用能力の指標」に基づき、学年段階に応じた活用、指導を推進する。
○総合的な学習の時間を中心に板橋区カリキュラムなどを活用しながら、中央図書館をはじめ地域の関係機関や素材を活用したり、学びのエリア3校で学びを相互に交流し合ったりして、郷土愛の育成、環境教育やキャリア教育の充実を図る。	・各教科・領域等における目標や内容と生活科・総合的な学習の時間との関連を図り、相互の学びを総合的に活用し合うことができるようにする。	○個別最適な学びの充実に向けた活用
	・地域の素材や人材の教材化、中央図書館をはじめとする関係機関等の連携を通じ、郷土についての理解と愛情を深め、学びを実生活や実社会の改善や向上に生かしたりして、子供主体の探究的な学習を展開できるようにする。	・自己の課題やペースに応じた追究、思考、表現活動の充実（記録する、調べる、考える、まとめる・表現する、ドリル学習等）
		・学びのプロセスの蓄積と振り返り（記録する、振り返る、修正・調整する）
		○協働的な学びの充実に向けた活用
		・自己の学びや考えを伝え合う（プレゼン、データの交流等）
		・対話を通して考えを深める（スライド、フィグジャム、共同編集・作成等）
		○各教員の実践の共有、交流促進（共有フォルダの活用、支援員の活用等）